

眼位と眼球運動の違い

大型弱視鏡の9方向で考えて見よう！

例えば、この人は右眼の上斜筋麻痺

上斜筋の作用は 下転・内方回旋・やや外転 なので

右眼上斜筋麻痺の眼位は 上斜視・外方回旋・やや内転

それぞれの9方向ではほぼその眼位になっていることが判る。(上斜筋なので右上方にはあまり影響は出ない)

すなわち眼位とは、眼球運動して、ある方向の固視目標を見た結果後の偏位

これを静的眼位という場合もある

	0° R/L3°	0°	0°
(左)	+2° R/L5° ex 1°	+1° R/L2° ex 2°	0° 0° ex 4°
	+2° R/L 8° ex 2°	+1° R/L2° ex 4°	+1° R/L2° ex 6°

斜視と眼球運動異常 P165

では、

この人の最大偏位方向は 左下方向 (回旋と上下筋から右眼内下転方向)

つまり、麻痺の場合、偏位が最も著しい位置までの眼球の方向がその筋の最大作用(眼球運動)方向となる。

この場合は、右眼 上斜筋麻痺なので

正面を見る為に、最も偏位の著しい(静的)眼位に到達しないようにその方向を避ける眼位である 右上方向(外上転方向)の位置に眼球がくるように頭位を向ける。

(右上方向での眼球偏位が0°であることもわかる)

左への顔向け、顎下げ

内方回旋の麻痺による外方回旋偏位がある場合には外方回旋は可能なので反対回旋が外方回旋となる左への首傾げをする(この症例の場合は水平と上下の修正だけで0°になっているので必要ないが)

この眼位から、顔向けを勘違いする人がいるので注意！！

内斜であることから右への顔向けとってしまう！！

水平筋には異常はないので、間違わないように！！

この頭位は、最大偏位方向への動きの代償として顔をその(最大作用)方向へ向けると考えても同じ。

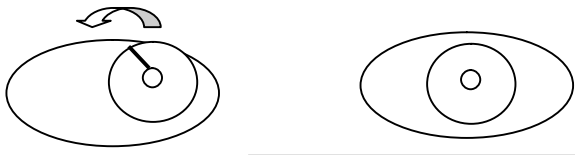
すなわち眼球運動とは、静的眼位に到達するまでの経過

これを動的眼位という場合もある

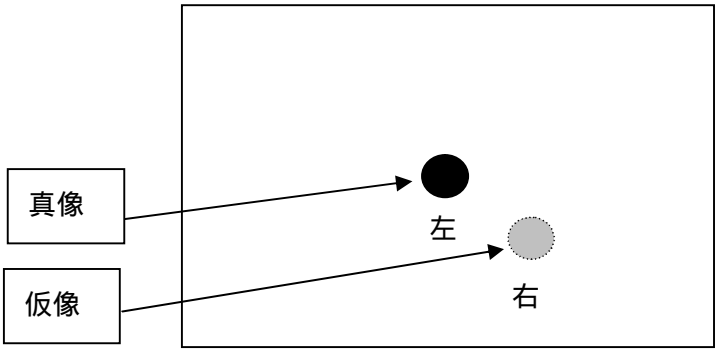
最大作用方向とは、その1つの外眼筋が目的の方向に上下、水平、回旋作用が最も分散しないで働くことが出来る方向

図で考えると

右眼 上斜筋麻痺

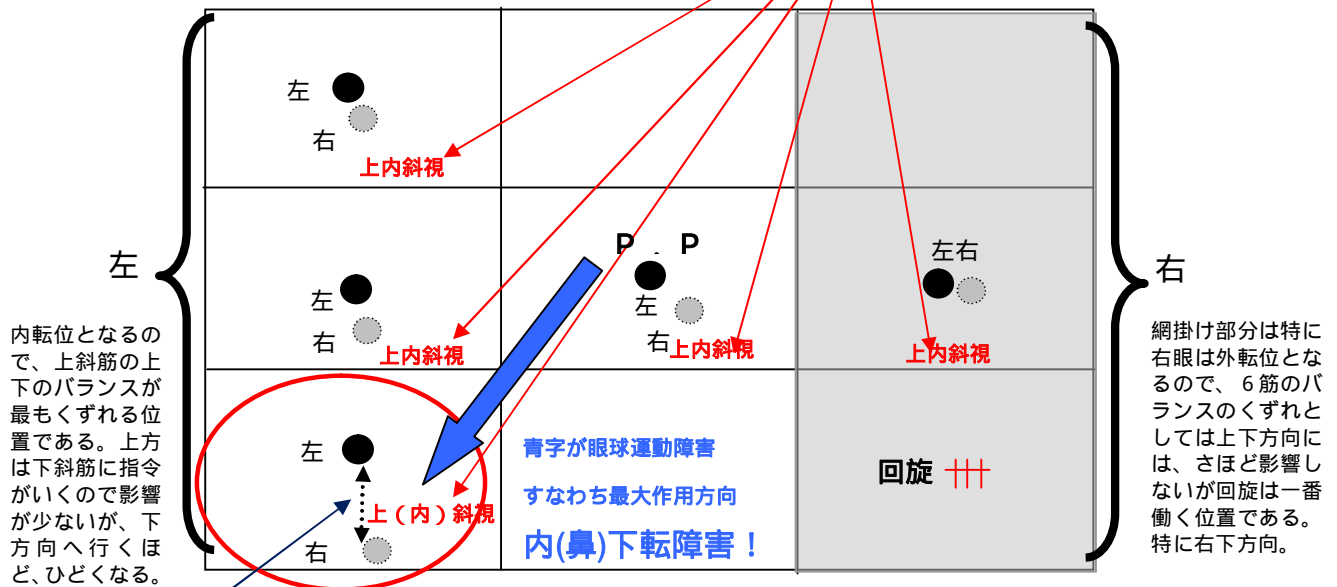


患者の見え方



外まわしとなるがこれは判らない
上下複視
同側性複視

赤字が
眼位



眼位は上内斜視だが、9方向眼位の中で最も偏位の大きい、すなわち複像間距離が大きくなる方向を眼球運動障害方向という。これは内下転障害。ここは6筋のバランスのくずれ+上斜筋への指令が麻痺のダブル偏位。
複像間距離がどこも同じものは、共同性斜視。